

第 35 回 縮小社会研究会報告



参加者 56 名

ベーシック・インカム (BI) は生活を維持するお金を所得や資産の多寡にかかわらずすべての人に支給する。そんなことをすると、誰も働かなくなる、国の財政が破たんするなど反論されます。しかし、この考えには 200 年以上の歴史があり、最近ではフィンランド、オランダ、スイスなどで実現について議論されています。縮小社会においても、BI は社会の基幹システムになりえます。そこで、BI を研究されてきた山森亮さんを招いて、BI の基本、これまで動向、適用可能性などを議論しました。

BI に関心のある方が多く、新自由主義との関係、福祉との関係などたくさんの質問がでました。そして、懇親会でも活発に議論されました。

時：2016 年 9 月 11 日 (日) 13 時 30 分より

所：京都大学 文学部新棟 第 3 講義室

講演 1. 13:30-15:00 山森亮 (同志社大学教授)

「ベーシックインカムを要求した女性たちの視点からみた、ケインズの予言」

まず、BI の歴史およびヨーロッパ諸国における最近の動向について説明する。また、BI は 1970 年代イギリスの女性解放運動が民主的に採択した要求項目の一つだった。ただしこのことは書かれた歴史からは消し去られてしまっている。BI を要求した労働者階級の女性たちへの 13 年にわたるオーラルヒストリー調査をもとに、彼女たちの運動とその背景を紹介し、それが私たちに問いかけるものについて、共に議論したい。



講演 2. 15:15-16:00 伊藤公雄 (京都大学教授)

「オペライズモからアウトノミアへ

ーイタリアにおける「(家事労働、失業者、学生…)賃金」要求への動き」

戦後イタリアの労働運動や社会運動は、他の諸国と比べても独自の理論を発展させた。なかでも、オペライズモ (労働者主義) と呼ばれた理論の登場は、その後のラディカルかつ多様な社会運動の源流を形成した。こうした流れの上に、1970 年代、「家事労働に賃金を」「失業者に賃金を」「学生に賃金を」といった要求をかかげたアウトノミア運動の発展がある。BI とも深くかかわる、戦後イタリアの社会運動の理論と潮流について紹介する。



講演 3. 16:00-16:45 松久寛 (縮小社会研究会代表理事)

「BI をベースにした縮小社会試案」

縮小社会を語ると、必ず、具体像を求められる。そこで、縮小社会への移行法を論じ、さらに、BI をベースにした縮小社会における生産、労働、教育、医療、家族などについての試案を提示し、議論したい。



自由討論：17:00-17:30

懇親会：17:45-19:15

28 名参加

一般社団法人 縮小社会研究会

〒606-8227 京都市左京区田中里ノ前町 21 石川ビル 305

e-mail: jimukyoku@shukusho.org

HP: <http://shukusho.org/>